

福生市教育委員会会議録

令和元年第1回臨時会

- 1 開催年月日 令和元年8月9日（金）
- 2 開始時刻 午前10時00分
- 3 終了時刻 午後0時10分
- 4 場 所 第二棟4階 第1委員会室
- 5 出席委員 教 育 長 川 越 孝 洋
委 員 渡 辺 浩 行
委 員 加 藤 孝 子
委 員 坂 本 和 良
委 員 野 口 哲 也
委 員 新 藤 美 知 子
- 6 欠席委員 なし
- 7 出席者氏名 教科用図書選定協議会委員長
福生第七小学校校長 佐 藤 正 明
教 育 部 長 中 岡 保 彦
参事兼教育指導課長 神 田 恭 司
教 育 総 務 課 長 中 島 雅 人
教育施策担当主幹 酒 見 裕 子
指 導 主 事 重 末 祐 介
指 導 主 事 古 川 裕 平
- 8 傍 聴 人 20人

午前10時00分 開会

教 育 長 それでは、ただいまから令和元年度第1回福生市教育委員会臨時会を開会いたします。

これより本日の会議を開きます。

日程に入ります。

日程第1、会議録署名委員の指名を行います。

福生市教育委員会会議規則第19条の規定に基づき、野口委員、新藤委員の両名を署名委員として指名いたします。

日程第2、福生市立小学校令和2年度使用教科用図書の採択について議題といたします。

坂 本 委 員 教育長、いいですか。この教科書採択のとき、毎回私から言わせていただいているのですけれども、今日もいつもとは違って大勢の傍聴の方がいらしています。教科書採択、これは教育委員会の重要な仕事であるし、我々教育委員の責務であると思っているわけですが、これまでこれを準備する段階でも選定協議会の中で地域の方だとか、保護者の方の代表にも入っていただいて、公平、公正に行うように資料づくりもしていただいていると思いますし、今日、この場でも多くの方に見に来ていただいているように、公開の場でやっているわけです。ただ、これは先ほど言いましたように、私たちが決定することですから、私たちがここで話し合って決める際、他の方からの何らかの圧力とか、そういったものは受けなくて静かにやりたい、静ひつな環境で審議をしたいと思いますので、もし何か議事進行上、課題のあるようなことがあったら、ぜひ司会のほうでコントロールをしていただきたいと思います。

最初に、これをお願いしたいと思います。

教 育 長 承知いたしました。今御発言ございました件につきましては、教育委員会傍聴規則にのっとりまして、議事の進行の妨げになるような行為があった場合、速やかに対処することといたしたいと存じます。よろしいでしょうか。よろしくお願いいたします。

それでは、内容に入ります。主幹より議案内容の説明をお願いいたします。

教育施策担当主幹 日程第2、議案第45号、福生市立小学校令和2年度使用教科用図書の採択につきまして御説明申し上げます。本議案は、令和2年度に本市小学校で使用する教科用図書の採択をお願いするものでございます。

初めに、これまでの経過について、大きく2点御報告申し上げます。

第1は、全ての教科書を調査対象とする採択資料の作成事務についてです。平成31年4月19日の教育委員会定例会で報告いたしました福生市立学校令和2年度使用教科用図書採択要領に基づき、教科用図書選定協議会及び教科用図書の調査委員会を設置いたしました。これらの委員会の目的は、本市の小学生に最も適した教科書を教育委員の皆様を選定していただくための資料を作成することです。選定協議会及び調査委員会の委員の選定におきましては、教科書発行者、その他の教科用図書の採択に直接の利害関係を有するものでないことを確認するとともに、それぞれの会の初回において適正かつ公正な採択の確保について委員全員で共通の理解を図っております。

恐れ入りますが、お手元のピンクのファイル、教科用図書選定協議会報告書、様式1をごらんください。資料の作成に当たっては、様式1、左側にご 있습니다 3つの観点から調査研究を依頼いたしました。1点目が内容、2点目が構成上の工夫、3点目が特徴についてです。本報告書の内容につきましては、後ほど教科用図書選定協議会、佐藤委員長から御報告をいただきます。

第2は、教科書展示会に係る報告でございます。お手元に別刷りの資料で、令和元年度における教科書展示会実施状況等についての資料をお願いいたします。令和元年6月2日から6月29日まで教科書の特別展示会及び法定展示会を、福生市立中央図書館を会場として開催しました。まず、来会者につきましてですが、資料の3、来会者数をごらんください。今年度の教科書展示会には合計34名の来会者を得ました。この来会者とは教科書展示会来会者票を提出された方の数を示しております。実際には教科書を御覧になったものの、本票を提出されなかった市民の方も多数いらっしゃったのではないかと考えております。

次に、アンケートにつきましては、資料の4にご 있습니다 ように、20通の御意見をいただきました。内訳は、市内在住者15通、市外等在住者が5通となっております。要望書等につきましては、1団体から1件の要望書が届いております。これらのアンケートの結果や要望書は、事前に教育委員の皆様にお届けしているところでございますが、本日改めて配付させていただいたところでございます。詳細につきましては、お手元の資料を御覧ください。

経過についての御報告は、以上でございます。

続きまして、教科用図書選定協議会報告書について佐藤委員長から御説

明いただきます。

佐藤委員長 福生第七小学校、校長の佐藤正明と申します。ただいま酒見統括指導主事よりお話がございましたとおり、教科用図書選定協議会委員長として全ての教科書について調査研究した結果を、私から御報告申し上げます。

御報告の仕方ですが、各教育委員の皆様のお手元に提出いたしました教科用図書選定協議会報告書、様式1の順番に各教科書の特徴について要約しながら国語から順次御説明申し上げます。

では、最初に国語でございます。国語は4社ございます。各教科用図書の共通事項を申し上げます。まず、学習の見通しが持ちやすい工夫が各社なされています。また、どの教科書もQRコード等で映像等の資料にアクセスできるようにしています。

では、初めは、東京書籍「新しい国語」です。単元ごとに言葉の力を明示してあり、単元の学習を通して何ができるようになるのかを明確にして取り組めるような工夫があります。また、課題解決的に学習を展開できるよう単元を、「つかむ」、「取り組む」、「振り返る」で構成しています。単元末の「ふり返る」では、学習のプロセスに目を向け、どんなことに気をつけたり、頑張ったりして取り組んだかを振り返られるようになっています。

次に、学校図書の「みんなと学ぶ 小学校国語」です。説明的な文章で児童の興味を喚起し、知的好奇心を刺激する新教材が掲載されています。また、第1学年の導入期にはインデックスや文字を大きくしているなどの配慮があります。「国語のカギ」というページには力を定着させるためのポイントが示されています。また、「授業で使う言葉」のページには学習で使う用語の意味と使い方が示されております。

続いて、教育出版の「ひろがる言葉 小学国語」です。音読の工夫を引き出すために文字の大きさを変えるなど、第1学年入門期の学習の配慮が図られております。また、挿絵が多く、特に文学的な文章の理解に役立つ挿絵が多く用いられております。人物の吹き出しにより学習内容を示し、学習に取り組みやすくしています。ほかにも仕掛け絵本の台紙がついているなど、巻末の付録の内容が充実しております。

続いて、光村図書出版の「国語」です。単元末の「たいせつ」によって学習項目が整理され、巻末の「学習を広げよう」でもまとめられています。同じく、巻末の「言葉の宝箱」では思考や表現の助けとなる言葉や語彙に触れられるよう、その学年に応じた語彙を考え、気持ちを伝える言葉とし

て提示し、活用しやすくなっております。

国語については、以上です。

続いて、書写です。書写は5社ございます。初めに、東京書籍の「新しい書写」です。特徴は、他の4社より教科書のサイズが横長のために余白が大きくなっていることです。また、正しく整った文字を書くために必要な知識、技能を「書写のかぎ」として示しています。「生活に広げよう」では、基本単元で学んだことを生かす構成となっており、書写の学びを日常の文字に生かす意識を高められるようになっています。

次に、学校図書「みんなと学ぶ 小学校書写」です。特徴は、お手本のサイズが見開きページ分と大きくなっていることです。また、書写の基礎基本を理解し、技能を習得して何が身についたかがわかるための学習の流れが明確に示されております。「ふり返ろう」では、身に付いたことが実感できるように身近な言葉などを書き、自分の文字の振り返りができるようになっています。

次に、教育出版の「小学 書写」です。紙面で使用する色を絞っており、文字に注目しやすい落ちついたレイアウトになっています。第3学年以上には後片づけの仕方が掲載されており、書いた半紙を挟む紙ばさみのつくり方が示されていたり、自分のめあてに沿った学習をするために練習用紙のつくり方が示されたりしています。

次に、光村図書出版の「書写」です。姿勢や筆記具の持ち方が学習習慣として定着するよう第1学年、第2学年の担当ページには「書写体操」を位置付けています。また、毛筆の導入に当たる第3学年には半紙に直接張ることができる「確かめようシール」を掲載し、自己評価や総合評価に活用できるようになっています。第6学年には「書写ブック」として第1学年からの学習内容の振り返りと学習内容を日常の中で生かすことがまとめられています。

次に、日本文教出版の「小学書写」です。特徴は、硬筆の手本の線が実際の書きぶりに近い太さとなっていることです。第3学年以上で「試し書きをする」、「考える」、「確かめる」、「まとめ書きをする」、「いかす」、「ふり返る」という学習の流れがとられ、試し書きとお手本、まとめ書きを比べて考えさせる工夫があります。また、「生活と書写」、「国語の広場」により書写の学習を日常の学習に生かす工夫がされています。

書写については、以上でございます。

続いて、社会です。社会は3社ございます。まず、東京書籍の「新しい

社会」です。導入でのつかむ場面において児童が自分で課題を発見し、学習問題を立てることができるように写真や絵、グラフなどが多く掲載されています。また、随所に「まなび方コーナー」が設けられていて、ねらいに応じた学習機能を習得できるようになっています。

次に、教育出版の「小学社会」です。問題を解決していく上で必要な学習技能を「学びのてびき」として適宜紹介し、ポイントとなる言葉や概念はキーワードとして明示されています。また、「まとめ」のページは、図や表が充実しており、しっかりと学習問題に応じた学習の振り返りができます。

次に、日本文教出版の「小学社会」です。6名の登場人物が登場し、その発言や活動の様子が児童の追求意欲を喚起し、学習活動の参考となるようになっています。また、「キーワードコーナー」や「調べ方・学び方コーナー」等、社会科の資質、能力を育成するためのコーナーが充実しております。

社会については、以上です。

続きまして、地図です。地図は2社ございます。まず、東京書籍の「新しい地図帳」です。冒頭の世界と日本のイラストマップで世界や日本のさまざまな事物を紹介し、児童の関心、意欲を引き出すようにつくられております。情報量が豊富で、歴史に関する資料が充実していたり、日本の世界遺産が全て写真入りで紹介されたりしています。

次に、帝国書院の「楽しく学ぶ 小学生の地図帳」です。辞書のように、地図の種別ごとに色分けされたインデックスがあり、学習内容に合わせて調べやすくなっています。「地図のやくそく」から「地図帳の使い方」まで地図帳を使いこなすための基礎力を育むためのページが充実しています。

地図については、以上です。

続きまして、算数です。算数は、6社ございます。初めに、東京書籍の「新しい算数」です。幼保小の接続期の学びが円滑に行われるように、第1学年では入門期の学習に特化した別冊の教材があります。また、「マイノート」のページにはノートのとり方について具体的なポイントが示されています。

続いて、大日本図書の「たのしい算数」です。第1学年から第3学年に「おうちで算数」のコーナーが設けられており、家庭との連携を図れるようになっています。また、プログラミング教育の教材が全ての学年に掲載されています。

次に、学校図書の「みんなと学ぶ 小学校算数」です。掲載されているQRコードを利用することで教材の扱い方を確認したり、自分で課題を選択して学習を進めたりできるようになっております。また、巻末の付属教材の紙質がしっかりしているため、児童が扱いやすくなっております。

続いて、教育出版の「小学算数」です。巻頭に前の学年で学習した見方、考え方を確認できるページがあり、学習経験を積み重ねていくための工夫がごさいます。また、つまずきのポイントを意識させる「考えるヒント」、「よくあるまちがい」が紹介され、基本の定着の徹底が図られております。

続いて、啓林館の「わくわく 算数」です。全単元に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得するためのアニメーションや動画を確認できるQRコードが用意されております。また、第1学年の導入時期に安心して学べるスタートカリキュラムが設定されております。

続いて、日本文教出版の「小学算数」です。巻末の「学び方ガイド」に単元の学習段階に応じた学び方や考え方の説明が記載され、主体的に学ぶための工夫がなされています。また、「わかっているかな?」、「まちがいやすい問題」のページを設置し、基礎の定着の徹底が図られております。

算数については、以上です。

続いて、理科です。理科は6社ごさいます。初めに、東京書籍の「新しい理科」です。特徴は、巻末に領域ごとの学習内容がまとめられ、次の学年との関連も系統的に理解できる点です。さらに、教科書のサイズが大きく、ダイナミックな写真やイラストを掲載することによって児童の興味・関心を引き出し、探究心を育てる工夫がされています。

続いて、大日本図書の「たのしい理科」です。特徴は「問題を見つけよう」という項目で、児童の体験や具体的な事例を通して問題づくりをすることで、児童が問題解決学習に主体的に取り組めるようにしている点です。また、理科の学習と関連する職業の話題を取り上げたり、コンピューターで調べる活動を紹介したりするなど、キャリア教育や情報活用などの現代的な諸課題にも対応しております。

続いて、学校図書の「みんなと学ぶ 小学校理科」です。特徴は、同じ領域で学びが生かせる単元に関しては、学びをつなぐための総合タイトルがつけられ、児童・生徒の学習意欲を高めるよう配慮されている点です。さらに、第6学年ではQRコードを使ってプログラミング体験もできます。

続いて、教育出版の「未来をひらく 小学理科」です。特徴は、各単元の初めに、理科の学習内容の系統性が示され、算数科や国語科などとの関

連性も横断的に理解できる点です。第6学年ではスクラッチを扱いプログラミング言語を学ぶことができます。

続いて、信州教育出版社の「楽しい理科」です。特徴は、学習内容の精選と効率化を図り、児童が時間の余裕を持って主体的に学習を進めやすい点です。また、動物や植物を扱う学習では必要以上の植物を採取しないなど環境への配慮についても示されています。

続いて、啓林館の「わくわく理科」です。特徴は、各学年の巻頭において、「見つける」、「調べる」、「ふり返る」の過程で問題解決をしていく学習の流れを把握できる点です。裏表紙に「保護者の方へ」とメッセージが掲載され、理科について家庭で話題できるように配慮されています。

理科については、以上です。

続きまして、生活科8社の教科書について御報告いたします。初めに、東京書籍の「あたらしいせいかつ」です。特徴は、学習冒頭の「何々したいな」という言葉で意欲を喚起し、できること、分かることが少しずつ増えていく実感を持ちながら学習できる単元構成になっている点です。

続いて、大日本図書の「新版 たのしいせいかつ」です。特徴は、自然や人とのかかわり合いをテーマとして複数の単元がまとめられている点です。また、学校探検用のカメラが掲載されていて児童の活動意欲を引き出すのに役立ちます。

続いて、学校図書の「みんなとまなぶ しょうがっこうせいかつ」です。内容を「探検」、「遊び」、「飼育」、「栽培」、「家庭・成長」の5つの活動領域に整理し、生活科の学習を進めやすくなっている点です。また、小さな生物を大きな写真で示しており、観察に生かしやすい教科書になっています。

続いて、教育出版の「せいかつ」です。特徴は、ウェビングマップの活用など多くの板書例が参考になる点です。また、「いぐら」というキャラクターと一緒に学んでいるように感じられ、児童の興味・関心を引き出せます。さらに、活動を安全に行うための約束が示されており、確認が徹底しやすくなっています。

続いて、信州教育出版社の「せいかつ」です。学校生活の始まりを生活科の始まりと捉え、生活を豊かに広げる、意欲を喚起する工夫がされています。また、子どもの願いを学習のきっかけにできる吹き出しの活用もしています。

続いて、光村図書出版社の「せいかつ」です。「ホップ」、「ステッ

プ」、「ジャンプ」のページ設定があり、各単元の内容を円滑に学習に取り組めるよう配置が工夫されております。また、スタートカリキュラムページ、「あたらしい いちねんせい」が設定され、入学当初の活動が示されております。

続いて、啓林館の「わくわくせいかつ」、「いきいきせいかつ」です。子どもの気付きを共有化、可視化するために板書や付箋、ICTを活用する学習活動を豊富に例示しております。

続いて、日本文教出版の「わたしとせいかつ」です。ページ内の構成がシンプルで、めあてなど一つ一つの指示や提示に着目しやすくなっております。また、「なつやすみをたのしくすごそう」というページが設定されており、生活科の学びを生かした長期休業の過ごし方を学ぶことができます。

生活科については、以上でございます。

続いて、音楽です。音楽は2社ございます。初めに、教育出版社の「音楽のおくりもの」です。重要な知識が「音楽のもと」として紙面に右上に記され、共通事項で示された音楽を形づくっている要素が理解しやすくなっています。また、児童の興味、関心を高めるために発達段階に応じた楽曲が収録され、他教科との関連も図られております。

続いて、教育芸術社の「小学生の音楽」です。資料やイラストの色彩、レイアウトがわかりやすく充実しております。また、1つの題材について、歌唱、器楽、鑑賞など偏りのないさまざまなアプローチがされております。さらに、リコーダーの基礎が手厚く、音の出し方、息づかい等、イラストつきでイメージしやすくなっております。

音楽については、以上です。

続いて、図画工作でございます。2社あります。初めに、開隆堂出版の「図画工作」です。授業の3つのめあてが毎回分かりやすく掲載されているとともに、重点目標については赤字下線つきで強調されています。また、作品鑑賞のマナーなど、美術館での過ごし方を記載し、児童が適切に鑑賞活動に取り組めるようにしております。

続いて、日本文教出版の「図画工作」です。特徴は友達と対話している場面を豊富に掲載し、対話しながら想像を広げたり、思いを伝い合ったりする活動を大切にしております。また、身近なものや美術作品等、多様な形や色に出会う「教科書美術館」があり、身の回りを造形的な見方で捉えることができるようになっております。

図画工作については、以上でございます。

続いて、家庭科です。2社ございます。初めに、東京書籍の「新しい家庭」です。巻末の「いつも確かめよう」のコーナーに家庭科の学習で身に付ける基礎・基本がまとめられており、いつでも確認できるようになっております。学習段階ごとに学習内容を振り返るためのステップが設けられているのが特徴でございます。

続いて、開隆堂出版の「わたしたちの家庭科」です。各単元末に記入することができる「振り返ろう」の欄が設けてあるので、学習の振り返りが行いやすくなっております。「一口メモ」の欄には学習内容に関連する事項が掲載されており、児童の関心を広げる工夫が見られます。

家庭科については、以上でございます。

続いて、保健です。5社ございます。初めに、東京書籍の「新しい保健」です。各単元が4段構成になっており、「まとめる・生かす」の段階は自分の生活を振り返ることや、保健学習の見方、考え方を整理するのに活用することができます。また、実験や実習について映像で確認できるデジタルコンテンツがついております。

続いて、大日本図書の「たのしい保健」です。導入では見開き掲載でイラストを紙面いっぱい活用し、学習内容への関心を高める工夫がされています。また、有名アスリートや著名人の言葉が紹介され、オリンピック、パラリンピック教育に関連付けた指導ができます。

続いて、文教社の「わたしたちの保健」です。教科書に「調べてみよう」、「ふり返ってみよう」、「話し合ってみよう」が明記されているので、児童が学習活動を把握しやすくなっております。また、生活習慣と体力テストとの関係が示されており、生活習慣への関心を高められる工夫がされております。

続いて、光文書院の「小学保健」です。巻頭にトップアスリートが保健を学ぶことの大切さを語るページがあり、保健学習への意欲を高める工夫がされております。学習内容に関連するウェブサイトが豊富に掲載され、興味・関心をして理解を深めることができるようにされております。

続いて、学研教育みらいの「みんなの保健」です。各単元が「つかむ」、「考える・調べる」、「まとめる・深める」で構成されているので、見通しを持って学習に取り組めるようになっております。また、健康が多くの人に支えられて成り立っていることに気付けるように、いろいろな職業や立場の人のコメントが紹介されております。

保健については、以上でございます。

続いて、英語です。英語は7社ございます。初めに、東京書籍「NEW HORIZON Elementary」です。特徴は、大判で見やすく紙面には書き込むスペースが十分にとられていて、児童の取り組みが教科書に残るようになっていっているところです。特に「We Can!」の4線と同じ幅の間隔となっており、この4線を用いた書く活動が各単元で設定されております。また、「Picture Dictionary」が別冊でついており、学習した言葉を復習することができるようになっております。

続いて、開隆堂「Junior Sunshine」です。特徴は、巻末に「文字に慣れよう」のコーナーがあり、慣れ親しんだ音と文字を結び付けることができます。また、導入には「Let's Listen」があり、出口を見通せるリスニング活動がございます。出口である「Let's Try」に向けてターゲットになる英語表現を使った活動を段階的に繰り返し設定し、無理なく出口のアウトプット活動ができるように工夫されております。

続いて、学校図書「JUNIOR TOTAL ENGLISH」です。各レッスンの最初のページ、全面に活動に対する興味を引き出すイラストが用意されております。学習は、アクティビティ1つを15分の目安で展開できるように配慮されております。また、「I go cycling at six.」の単元では、自分の行動について時刻別にかくことができるなど体験的な学習が重視されております。

続いて、三省堂「CROWN Jr.」です。大単元が、見通し「HOP」、習得「STEP」、活用「JUMP」で構成されております。大単元の始まりの「HOP」では、最終活動の「JUMP」で、誰にどんなことを伝えたいかイメージし、自分で学びの見通しを立てることができるように配慮されております。そして、「STEP」では何度も表現に触れることで確実に定着できるように工夫されております。「JUMP」では、「STEP」で積み重ねてきたことをもとに実際の場面で表現できるような構成となっております。

続いて、教育出版「ONE WORLD Smiles」です。単元の終わりにある振り返りの項目が学習指導要領に沿っており、児童にとって理解しやすく示されております。また、「Let's Read and Act」では、児童がこれまでの生活経験の中で触れてきた物語を取り上

げており、児童が興味・関心を持って学習に取り組むことができる工夫がなされております。巻末の絵カードにはミシン目が入っていて、児童が使用しやすくなっております。

続いて、光村図書出版「Here We Go!」です。単元が導入「HOP!」、展開「STEP 1、2」、まとめ「JUMP!」で構成されており、聞く活動から始まり、話す活動を経て、徐々に読む、書く活動へと授業がスムーズに進むようになっております。また、水性ペンを用いて文字を何度も書いて練習できるペンマンシップ・シートがついています。

続いて、啓林館「Blue Sky elementary」です。1回の授業で1パートが見開きになっています。また、パートごとにめあてが明記しており、児童が学びの見通しを持つことができるよう配慮しております。巻末のカードにミシン線があり、切りやすい工夫がされております。

英語については、以上でございます。

続いて、道徳です。道徳は8社ございます。初めに、東京書籍「新訂新しい道徳」です。子どもたちを取り巻く今日的な課題に対応した教材、子どもたちの心を揺さぶる感動的な教材が多く掲載されています。また、学習のふり返りと学習のまとめで心に残った教材を振り返ることにより成長を見つめることができます。

続いて、学校図書の「かがやけみらい 小学校道徳」です。別冊ノート「まなび」には導入や主題名、発問等が示され、自分の考えや友達の考え、自己評価等を書くことができるようになっております。教材文が載っている手引きには教材文のみの掲載で幅広く活用できる工夫がされております。

続いて、教育出版の「小学道徳 はばたこう明日へ」です。学年の初めは、自分自身に関する教材を多く配置するなど児童の発達段階を考慮した配列になっております。また、多様で体験的な学習が展開できるようにモラルスキルトレーニングを各所に取り入れてございます。また、巻頭と巻末には「道徳開き」と「振り返り」のページを設定し、授業での成長や心の変容が分かるよう工夫されております。

続いて、光村図書出版の「道徳 きみがいちばんひかるとき」です。児童が考えたくなる、答えたくなる多様な教材が選定されております。導入ではキャラクターが問いかけることで児童が無理なく学習に入ることができるよう工夫されております。巻末の「学びの記録」は自分の考えを書きとめることで1年間を通した振り返りができるようになっております。

続いて、日本文教出版の「小学道德 生きる力」です。巻頭にオリエンテーションのページがあり、学び方などを児童の発達の段階に応じて分かりやすく示してございます。別冊の「道德ノート」は自由に書き込める欄があり、児童が活用しやすくなっております。

続いて、光文書院の「小学道德 ゆたかな心」です。児童に寄り添うキャラクターがさまざまな投げかけを行い、共感や気付き、考えるためのポイントや考えを広めるための見方などを示してあります。このことで多様な感じ方や考え方を実感できるようになっております。

続いて、学研教育みらいの「みんなの道德」です。情報モラルやキャリア教育など、現代的な課題を扱った教材を選定しています。また、イラストや写真が多く掲載されていて教材の理解を促す工夫となっています。各ページ余白が多く、児童の自由な発想を書き込むことができるようになっております。

最後に、廣済堂あかつきの「みんなで考え、話し合う 小学生の道德」です。別冊の「道德ノート」は、自由に記述できる欄も多く設定されていて、児童の考えをたくさん書くことができます。教材の末尾に「考えよう話し合おう」を設定し、児童の積極的な話し合いを促しております。

長時間になりましたが、教科用図書選定協議会が作成いたしました報告書、様式1に基づきながら全社全ての教科書の特徴について要約して報告をさせていただきました。

以上になります。

教 育 長 内容説明、ありがとうございました。

それでは、これから質疑に入りたいと存じます。各委員におかれましては、出版社からの全ての教科書について既に調査をいただいておりますが、本日はその上で御質問いただくとともに、ただいま選定協議会委員長等から御説明がありましたが、その内容について御質問等ありましたら、お出しいただきたい。さらに、議論を深めてまいりたいと存じますが、いかがでございますか。

坂 本 委 員 教育長、ちょっといいですか。それぞれの教科ということではなく、委員長の感覚で構わないのですけれども、子どもたちのかばんが重くなった、ランドセルが重くなったという話題があるではないですか。教科書はどうですか。何か、紙質がよくなったとか、写真が多くなると、それだけ紙も厚くなるのだろうかと思うのですけれども、全体的に重くなっているかどうかというのは、イメージで何かありませんか。

教 育 長 佐藤委員長、いかがですか。小学校で、連日見ておられて子どもたちの様子から、いかがでしょう。

佐藤委員長 教科書のサイズが今回もそうなのですけれども、少し大きくなったり、合冊になったりというところで、実際に重くなっているかどうかは分からないのですけれども、重くなっている感覚はあります。それ以外に学校で持ち帰るファイルや補助教材のドリル等もございますので、子どもたちが家に持って帰る教科書自体は、トータルでは重いのではないかと思います。ただ、今学校では様々工夫をしております、例えば、今日持ち帰らなくてもいいと判断するものは学校に置いておいたり、必要に応じてそういったことを工夫されたりということで、子どもたちが負担にならないような工夫はしているところです。

坂 本 委 員 ありがとうございます。

教 育 長 よろしいですか。

坂 本 委 員 はい。

教 育 長 何かほかにございますか。教科全般にわたってというところでの御質疑でございますけれども、この後、各教科ごとにただいまの委員長の説明を受けての質疑といたしたいと思いますが、全般的によろしいですか。

出ているコンテンツが今回豊富な教科書、それぞれの教科書会社から出ているわけございまして、この辺においても、本市が今進めておりますICTの環境づくりといったところも、十分にやはり付随して大変重要な課題になってくるなということを改めて思いながら、教科書を見させていただいたところでございます。

それでは、教科ごとの質問ということでよろしいでしょうか。

まず、国語のほうからいかがでございましょうか。何か御質問等ございましたら、お願いいたします。

野 口 委 員 国語に関して、全教科にかかわる非常に大事な教科だとは思いますが、本市の場合は学力調査の結果でも読む力が課題になっているという報告も聞いています。そこで読む力、それを育てるような、読むことが機会的に多いような教科書とか、そこに比重を置いている教科書について教えていただければと思います。

佐藤委員長 読むことの作品数でございますが、文学的な文章が最も多いのは光村図書出版で、次いで東京書籍となっています。説明的な文章が一番多いのは学校図書で、次いで光村図書出版、東京書籍の順になっております。特に原作の意図を忠実にあらわしている教材が多く使用しているのは光村図書

出版でございます。

教育施策担当主幹 事務局より補足をいたします。東京都教育委員会が作成いたしましたこちらの令和2年度から5年度使用教科書調査研究資料によりますと、読むことの文種別の作品数の中で文学的な文章では光村図書出版が34作品、次いで東京書籍が32作品となっております。説明的な文章では学校図書が35作品、光村図書出版と東京書籍が34作品となっております。

教 育 長 ありがとうございます。

野口委員、よろしいですか。

野 口 委 員 はい。ありがとうございます。

教 育 長 ほかにございますか。いかがでしょうか。国語でございます。

坂 本 委 員 今回の新しい学習指導要領の中でのキーワードというのは、やっぱり主体的・対話的で深い学びということで、子どもたちが話し合えるような場面でいろいろと学んでいけるような、そういった授業スタイルですね。そういったところを求められていると思うのですけれども、国語でもただ読んで、それぞれの言葉の意味を確認したり、誰が言っているのだろうかというようなことを見たりするだけではなくて、それをもとに子どもたちの話し合いができるような、そういった教材があるとありがたいと思うのですけれども。今回調べてみて、そういった話し合いをするような学習をよく扱っているような教材、教科書というのはあるのでしょうか。

佐藤委員長 これから主体的・対話的で深い学び、各教科等で重要にされておりますが、特に国語では話すこと・聞くことの領域がございます。その中で、例えば少人数のグループであったり、学級全体での話し合い等の単元があります。その単元数が最も多い教科書は、今回では光村図書出版でございます。

教 育 長 よろしいでしょうか。

ほかにございますか。

新 藤 委 員 内容とちょっと離れますが、見てみますと、教科書によって上下巻に分かれているものと、分かれていないものがあるようです。その状況をちょっと教えていただきたいということと、協議会で分かれている、分かれていないの是非についての話し合いがあったならば、それもあわせて教えていただければと思います。

佐藤委員長 では、私から、上下巻に分かれているもの、そうでないものについて御説明をさせていただきます。まず、東京書籍と光村図書出版は、第1学年から第4学年までは上下巻の2分冊となっております。第5学年、第6学年は、年間1冊の合冊ということになっております。そして、学校図書と

教育出版でございますが、全ての学年で上下巻の2分冊になっております。

教育施策担当主幹 補足いたします。是非はというようなことがございましたけれども、小中連携の視点から考えますと、中学校では1冊となっているものが多いかなというふうに思います。そうした点から、5、6年生で年間1冊ということでもいいのかなという御意見が出ておりました。

教 育 長 よろしいですか。

新藤委員、よろしいですか。

新 藤 委 員 はい。

教 育 長 ほかにございますか。私から1点だけ伺いしてよろしいですか。国際化ということに伴いまして、古典だとか、あるいは我が国の言語、文化に関する指導を充実していく必要があるだろうというふうに強く思っているところでございますが、そうしたものが充実している教科書というのはどういうものになろうかなというところでちょっとお尋ねしたいと思いますが、いかがですか。

教育施策担当主幹 先ほどの同じく東京都の教科書調査研究資料に基づきますと、俳句、短歌や漢詩、漢文等を最も多く掲載している教科書が光村図書出版となっております。次いで東京書籍となっております。

教 育 長 はい。承知しました。ほかにいかがですか。

時間の関係もございますので、国語についてはよろしいでしょうか。

それでは、続きまして、書写に入らせていただきます。書写で何か御質問等ございましたら、お願いいたします。いかがですか。

加 藤 委 員 学校訪問とかに伺ったときに、姿勢がちょっと悪かったりとか、あと鉛筆の持ち方がきちんとできていないお子さんが私はとっても目についてしまったのです。ちゃんと鉛筆が持てていないとか、姿勢が悪いと、文字が正しく書けなかったりとか、きれいな整った文字は書けないと思います。このような姿勢とか、鉛筆の持ち方という基本について各教科書で特徴的なことがあったら、教えていただけますでしょうか。

佐藤委員長 姿勢や鉛筆の持ち方、本当に非常に大切なことだと思ひまして、学校でも日々指導しているところなのですが、姿勢や鉛筆等の用具の持ち方、また使い方を取り上げているページ数でお答えをさせていただきますが、光村図書出版が42ページで一番多く、次いで東京書籍36ページとなっております。

教 育 長 よろしいですか。

加 藤 委 員 ありがとうございます。

教 育 長 ほかにございますか。書写ということをございます。よろしいでしょうか。

よろしいですか。それでは、ないようでございますので、続いて社会科に入りたいと思います。社会について御質問等、何かございましたらお願いいたします。

新 藤 委 員 社会科の学習というのは子どもたち自身に課題をしっかりと捉えさせて、そしてさらに自主的、あるいは主体的に学習に取り組ませていくという、これは教科として本当に重要なポイントだと認識しております。その中で、この各教科書が問題解決学習ということに子どもたちを取り組ませる、その工夫というのですか。それが、どんなふうに取り扱われているのか、その点を教えていただければと思います。

佐 藤 委 員 長 各社、問題発見解決学習についてはきちんと取り上げているところをございますが、まず、東京書籍と教育出版の両者は、「つかむ」、「調べる」、「まとめる」という3つの学習過程をたどりながら学習を進める。そんな単元構成が工夫されています。また、日本文教出版は、学習過程の型は特に示されていないのですけれども、例えば導入のページで、調べたいこと、また調べ方とか、まとめ方等が示されていて学習の見通しが持てる、そんな工夫がされています。

新 藤 委 員 はい。ありがとうございました。

教 育 長 よろしいですか。ほかに関御質問等ございましたら、お願いいたします。

野 口 委 員 社会科の学習において、いろいろ資料等もあるとは思いますが、単元のねらいに応じて軽重つけて教える側が選択していくようになるかなとは思っています。また、最近の子どもたちに限らずですけれども、実際のものを見る機会に恵まれている子、そうでない子もいたりしますから、いろいろなQRコード等も含めてデジタルコンテンツがかなり教科書にいろいろ含まれているようですが、実際に見る機会がなくても、そういうデジタルコンテンツ等を通じて、いろんなことを体験できるようになっているのかなと思っています。

そこで、教科書ごとのデジタルコンテンツの実際の内容とか、また何か各社ごとに特徴があれば、教えていただきたいと思います。

佐 藤 委 員 長 今回の教科書の特徴は、全ての教科書でデジタルコンテンツを扱っていたり、ICT活用が工夫されていたりという特徴があると思うのですが、特に東京書籍では教科書に学習内容を深めるためのデジタルマーク

というのがついています。特徴としてはクイズ形式で理解を深める「やってみよう」、また動きや実物が確認できる「見る」で、学習に関連があるサイトに接続できる「調べる」といった3種類のコンテンツに分かれています。ほかにも、教育出版では、例えば「まなびリンク」というものが目次に示されておりまして、ここにアクセスすることで利用できるようになっています。グラフで注目すべきところを示したり、教師が表示する情報量を意図的に制限したりして表示する、そんな工夫がされています。

さらに、日本文教出版では東京書籍と同様ですが、その教科書に学習内容を深めるためのデジタルマーク、こういったものがついているページがございまして、必要とする情報だけを表示することができたり、また学習に関連があるサイトに接続できるような、そんな工夫が各社されておりまして。

野口委員 ありがとうございます。

教 育 長 ということですが、いかがですか。よろしいですか。

野口委員 はい。

ほかにございますか。よろしいですか。

それでは、次に入らせていただきます。地図帳でございますが、地図帳につきましては、何か御意見ございましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

新藤委員 お願いいたします。地図帳というのは見たところ、非常にタイトな情報があります。そして、その中で子どもが適切な情報を読み取り、あるいは見ようという意欲を湧かせていくためには、やっぱり子どもの実態というか、能力に見合った形の情報量であるかどうか。これは、採択についての大きな観点の一つかなと考えました。そんなことから、各地図帳の情報量についてどのような扱いで、どのくらいあるのか。あるいは、また領土問題、日本の領土等についてどんな表現になっているのか、そのあたりを教えていただければと思います。

佐藤委員長 索引に記載されている日本の地名数という部分で、情報について説明をさせていただきますが、まず東京書籍は2,191で、帝国書院は2,132となっており、あと今は日本の地名数だったのですけれども、世界の地名数で比較をしますと、東京書籍が471で、帝国書院は397となっており、情報量に関しては幾分ですが、東京書籍のほうが多いという状況になっています。また、先ほど日本の領土についての記載内容なのですけれども、東京書籍は日本の領土については太字の線で囲むというような表記をしてお

ります。それから、領土の面積や島の数等、国土の様子についての資料が
ございます。

帝国書院のほうですけれども、日本の領土が色で識別できる表記とな
っております。また、領海、領空について視覚的に理解できる資料も掲載
されております。

教 育 長 ほかにございますか。新藤委員、よろしいですか。

新 藤 委 員 はい。

教 育 長 ほかにございませんか。

それでは、ないようでございますので、次に算数に移りたいと思います。
算数、いかがでございますか。

野 口 委 員 幼保小の連携の重要性というのは、今さら申し上げるまでもないのです
けれども、特に算数。先ほど説明の中で入門期の学習について説明をされ
ていた教科書があったようですけれども、そういう連携も含めたスムーズ
に小学校の算数の学習に入っていけるような、そのあたりの小学校入門期
の学習の特徴について、各社の特徴を教えてくださいと思います。

佐 藤 委 員 長 小学校の入門期、1年生の最初のころなのですけれども、幼稚園や保育
園との接続を意識した教科書がほとんどになっております。特に東京書籍
では入門期に特化した分冊が用意されておりまして、幼児期に育まれた数
や量への概念、意識等を引き出す、そんな内容になっています。

また、大日本図書でございますが、こちらは短時間で行う活動、例えば
15分間とか、そういった時間で行う活動や友達とかかわる活動、あとは生
活科と合科で扱える活動が掲載されております。

続いて、学校図書でございますが、これは幼稚園や保育園で慣れ親しん
だ絵本のような場面や仕掛けが用意されています。

教育出版でございますが、就学前、幼稚園や保育園での体験を踏まえて
生活科との関連が図られた内容となっています。

続いて、啓林館でございますが、これも幼児期の体験をもとにして算数
の素地につなげるような対応になっています。

最後ですが、日本文教出版。これも幼稚園や保育園での経験と算数との
関連について、対話を通して見つけるような、そんな工夫がされていると
ころです。

教 育 長 ありがとうございました。

よろしいですか。

野 口 委 員 はい。ありがとうございます。

教 育 長 これから幼保小の連携が、本市でもかなり重要になり、力を入れていきたいと思っているところでございますが、ほかに何か算数で御意見ございましたらお願いいたしたいのですが、いかがでしょうか。

新 藤 委 員 私が中学校の授業を参観していた際に、私は社会科の教員だったのですが、表やグラフに対し、子どもたちがその意味を適切に読み取ったり、その変化の意味ですね、そこに示されている意味を読み解くという力が非常に弱い部分があったり、不得手な生徒も一定数いるという実態をお伺いいたしました。そんなことを踏まえて、小学校のこの算数の中で関数的な見方を育てたりとか、あるいは表やグラフの読み取りについて指導している。その部分の量や内容に特徴があるものがあれば、教えていただきたいと思います。

佐 藤 委 員 長 算数で、今回の学習指導要領の改訂で4領域から5領域に変わったのです。その中に変化と関係という領域がございます。特に算数で学習する変化と関係を取り扱っているページの数の割合なのですけれども、調べましたら、東京書籍が8.9%、大日本図書が7.4%、学校図書が8%、教育出版が7.7%、啓林館が8.3%、日本文教出版が6.7%となっております。

教 育 長 新藤委員、よろしいですか。

新 藤 委 員 はい。ありがとうございます。

教 育 長 ほかにございますか。

坂 本 委 員 今、変化の割合の話が出たのですけれども、もっと子どもたちの場合は入り口のところでひっかかることが多いと思うのです。例えば小学校に入ったばかりのころで一番最初にひっかかるのは引き算の繰り下がりだと思うのです。あの辺のところで、何か分かりやすく丁寧に説明している教科書というのはありますか。

佐 藤 委 員 長 例えば $13 - 9$ なんて引き算があるのですけれども、これを算数では13を分解して $10 - 9$ にして、それで1、 $3 + 1$ で4とやる場合と、あとは $13 - 9$ の9のほうを分解して、 $13 - 3$ は10で、 $10 - 6$ は4なんていうふうに扱う。前者が減加法で、後者が減減法なんていうふうに言い方をするのですけれども、今回の教科書で調べたところなのですけれども、この第1学年の減減法に関する指導の仕方に特徴がございます。東京書籍は、算数ブロックよく使うのですけれども、そのブロックの操作法を示すにとどめております。

また、大日本図書は、登場人物がヒントの言葉を示すだけにとどめていきます。

学校図書は減加法と減減法の考え方を提起して計算の仕方の違いを比べられるようにしています。

教育出版なのですけれども、こちらは登場人物がブロックを操作して、最後まで答えの出し方を示しています。

啓林館は、減減法については解き方の紹介程度になり、習熟用の問題は用意されていません。

また、最後に、日本文教出版は引く数を分解し、最初に行う計算が示されています。子どもにとって減加法がいいのか、減減法がいいのかという、そういう議論はあるのですけれども、ただ、どちらかという、子どもが計算しやすいのは減加法なのかなというふうに感じていまして、もし、でも減減法が出た場合にも、その考えは認めてあげると、そんなことをしています。

以上です。

教 育 長 なるほど。具体的に大変わかりやすい説明をいただきました。

坂本委員、よろしいですか。

坂 本 委 員 はい。

教 育 長 それでは、算数について、ほかに何かございますか。質疑はよろしいですか。

次に、理科に入らせていただきます。

渡 辺 委 員 問題解決の過程を一層重視するというのが今回の教科書の改善点の一つだと思うのですが、児童が問題を見出す過程について特徴的なことがあれば何か教えていただければなと思います。

教 育 長 なるほど。問題解決の過程についてですね。

佐藤委員長 理科の学習でも問題発見や問題解決学習、非常に重要にされているところでございますが、今回の教科書で児童が問題を見出すための身近な体験や具体的な事例など、導入部分がどの程度の分量を占めているかについて発行社によって幾分差がございました。例えば6年生の燃焼の仕組みという単元がございまして、それを例に挙げますと、例えば問題が提示されるまでのページ数が各教科書会社によって違ってございまして、大日本図書が4ページ半ぐらいで最も多くて、次いで教育出版が4ページで、啓林館が3ページとなっています。この傾向というのは、ほぼ他の単元によっても同じように共通されておりました。

渡 辺 委 員 ありがとうございます。

教 育 長 ほかにございますか。ないですか。生活に移ってよろしいでしょうか。

よろしいですか。それでは、生活科のほうに移らせていただきますが、何か生活科で御質問等ございましたら、お願いいたします。

加 藤 委 員 素人ではありますが、生活科は子どもたちの実際の活動や体験を通して気付いたことを基に子どもたちが考えたり、表現したり、自分たちの遊びをよくしたいなということが重要だと思うのです。そのためには教科書に載せられている活動例が精選されている必要があるかと思いますが、その点について各教科書の特徴があったら教えていただけたらいいなと思います。

佐 藤 委 員 長 今、御質問にございました活動例の精選についてということなのですが、植物の栽培や動物の飼育など自然と触れ合ったり、関わったりする活動の掲載数は、今回極端に数が少ないのが信州教育出版社で8例でした。これを除きますと、教育出版と啓林館がともに31例にまとめてございまして、ほかの発行社に比べると精選されていた教科書になっております。

教 育 長 よろしいですか。

加 藤 委 員 ありがとうございます。はい。

教 育 長 ほかにございますか。なければ、次に入らせていただきます。音楽でございませう。

音楽について、何かございましたらお願いいたします。

いかがですか。音楽について、何かございせんか。

私からよろしいですか。質問させていただきたいのですが、音楽科においての共通事項、これは音楽は音楽を形づくっている要素や、それにかかわる身近な音符、あるいは休符、記号、用語など、表現や鑑賞の学習において共通に必要な資質、能力であると思っております。各領域や分野の関連を図る上で重要だと考えておりますけれども、そういった観点で各発行社の特徴をちょっと教えていただけないかなと思っておりますが、大丈夫ですか。

佐 藤 委 員 長 共通事項についての御質問ですけれども、まず音楽を形づくっている要素、聞き取ったことと感じとったこととのかかわり、それについて示している箇所についてですが、全学年の合計になりますけれども、教育出版が88カ所で、教育芸術社が121カ所となっています。

もう一つ。音楽を形づくっている要素や、それにかかわる身近な音符、休符、記号や用語について示した箇所ですけれども、こちらは教育出版が120カ所であるのに対して、教育芸術社が199カ所となっております。

教 育 長 よくわかりました。

音楽について、いかがですか。ほかにありますか。特にないですか。よろしいですか。

それでは、次に進めさせていただきます。図画工作、これは渡辺委員から何かありますか。

渡 辺 委 員 今回の教科書を見てまして、QRコードがすごく対応されているなど感じています。特に開隆堂さんのページを見ると、QRコードがほとんどのページで使っているそうです。また、もう一社の教育出版社さんはインターネットのマークとかあったり、やっぱり今、そこら辺の使い方について、対応できるのかなという気もしてしまっているのですけれども、いかがですか。

佐藤委員長 これは、先ほどのほかの教科でも出てきましたが、今回デジタルコンテンツやICT活用という点で教科書がかなり充実をしているなと思っております。特に開隆堂のQRコードでございますが、道具の使い方、図画工作で使うカッターだとか、金づちだとか、いろんな道具の使い方についての動画を見ることができます。また、日本文教出版は、教科書会社のホームページから動画サイトに飛んで、そちらから見るできるようになっています。日本文教出版の動画の内容は作品例の動きや遊び方の紹介となっています。

どちらも、こうはなっているのですけれども、これからの学校の環境がICT、例えばタブレット端末を使ったりだとか、そういったことが整備されていたら導入できると、活用できるという内容になっていると思っています。

教 育 長 ありがとうございます。ここの、デジタルコンテンツ、私、全部やってみました。今回、ついているものを全て自分のこのスマートフォンでやってみたのですが、本当によく分かりやすいです。

それでは、次に移りますがよろしいですか。家庭科についてはいかがでしょうか。

加 藤 委 員 各学校の作品展で子どもたちが家庭科でつくった作品を展示してあるのを見せていただいているのですが、一生懸命工夫して作製したものを目にしています。それで、読み書き計算もとても大事だと思うのですが、この時代だからこそ、家庭科に関しても基礎的・基本的な力を身に付けることが大切だと実感しています。ものづくりの指導について何か特徴的なことがある教科書があれば、お教えいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

佐藤委員長 展覧会等ではエプロンだとか巾着袋だとか、そういったものを5、6年生でつくるといのが家庭科の授業の中心になっているのかなとも思うのですけれども、特にものづくりの中で東京書籍のミシンの使い方についてとても丁寧にされておりまして、例えば7段階に分けて必要な動作等を丁寧に説明している、そんな教科書になっています。また、開隆堂のほうでございますが、こちら先ほども出ましたQRコードが豊富に示されておりまして、動作等を動画で確認する、子どもたちが、子どもたちの学びに応じて活用できるような、そんな工夫がされています。

教 育 長 よろしいですか。

加藤委員 はい。ありがとうございます。

教 育 長 ほかにございますか。よろしいですか。

それでは、続きまして、保健に入らせていただきます。保健について、いかがでございましょうか。どなたか。一人でも御意見いただきたいところです。

坂本委員 保健というと、どうしても、何か、けがとか病気とかというイメージがあるのですけれども、今、子どもにとっても、やっぱり心の問題というのはものすごく大きな部分があると思うのです。そういった心のケアみたいなものを扱っている教科書について、調べた範囲でわかったら教えていただきたいのです。

佐藤委員長 子どもたちの心の健康については、学校でも非常に重要だと感じております。保健の教科書で心の健康について取り上げているページ数でございますが、東京書籍が16ページで一番多くなっています。続いて、学研教育みらい、光文書院が14ページ、大日本図書と文教社が12ページとなっています。子どもたちの不安や悩みへの対処の方法、これらについては、特に学研教育みらいが5カ所取り上げてございまして、5社の中で最も多くなっています。他社はといいますと、4カ所で取り上げられているという現状になっています。

教 育 長 坂本委員、よろしいですか。私も同じ問題意識を持っておりまして、この心の健康、不安や悩みというところで、ぜひ私も伺いたいところだったので、ほかにございますか。よろしいですか。

では、続きまして、英語に入らせていただきます。御案内のとおり、英語につきましては、初めての採択ということで7社の教科書会社から出ておりますけれども、英語について、本市でもこれまで率先して市長のリーダーシップのもとに英語教育を進めてまいりましたけれども、この小学校

英語教科書採択ということで初めてのことですけれども、ぜひ御意見を賜りたいと思っておりますが、これについていかがでございましょうか。

新 藤 委 員 本格的な導入に当たって中学校を回っておりますと、小・中の授業のやり方であるとか、扱い方の差が生まれて、中学校へ子どもたちが来たときにマイナスに働いて英語嫌いが増えてしまうのではないかという不安の声があったり、だからこそ、小・中でどうやって連携していくのかを本当に真剣に、具体的にやっぱり考えていかなければならないという声が聞こえてまいります。そういうことの中で、私もまた絶対にもう英語嫌いを増やすということは、子どもたちの学ぶチャンスと権利を奪うことにつながるわけですので、ぜひとも小・中の授業のスムーズな連携といいますか、スムーズなつながりを重視して考えていきたいと考えておりますので、その小・中連携という視点からどのように考えていらっしゃるのかお聞きしたいと思います。

佐 藤 委 員 長 小・中の連携、小・中の学びのつながり、非常に重要だと考えております。現在市内の中学校では三省堂の教科書を使用しておりますが、今回の三省堂の「CROWN Jr.」は、単元の最初に1枚の絵が配置されておりまして、楽しいイラストで場面や状況を示していることで語彙や表現をインプットしやすくなっている、そんな工夫がされております。その後のページでは、なれ親しんだ表現を1つに焦点化して、少しずつアウトプットにつなげていく、そんな紙面の構成になっております。この構成が中学校で今活用している教科書にとっても似ているために、子どもたちにとって違和感がなく進められるのではないかなと考えております。

教 育 長 よろしいですか。

新 藤 委 員 はい。

教 育 長 ほかにいかがでございましょうか。

渡 辺 委 員 今もお話がありましたけれども、ここ数年、本市においては英語教育に力を入れてずっと来ていますよね。小学校の英語の教育の指針をつくったり、とにかく英語に特化したいぐらいのつもりで今まで英語教育をやってきましたけれども、これまでの本市の指針に合致したというか、生かせるような教科書というようなところで考えるとどんなところになっていくのかなと教えてください。

佐 藤 委 員 長 本市の指針を生かせる教科書はどれかということでございますけれども、小学校英語教育の指針の第5・6学年の学習指導案は「We Can!」に基づいて作成がされています。特に光村図書出版は、この「We Ca

n！」と単元名や単元構成が非常に似ておりまして、現在使用している指針に沿って、ある程度それを生かして指導することが可能ではないかなと考えております。

教 育 長 いかがでしょうか。よろしいですか。

ほかに何かございませんでしょうか。

それでは、道德のほうに入らせていただきます。特別の教科 道德ということでございますが、何か御意見等ございましたらお願いいたします。

坂 本 委 員 先ほど配られた教科書展示会の実施状況の中に御意見をいただいている方のものがあつたのですけれども、その中に道德というのは評価するのではないとか、心の中を評価することはできないというような御意見がありましたけれども、全くそのとおりだと思うのです。道德について、今回新しく特別の教科として評価もすることになっているのですけれども、この評価というのは道德性を評価するのではなくて、子どもたちがこの授業の中でどういう活動をしたかという、それを評価するのであって、価値観であるとか、人の心情ですね、こういったものを評価するなんていうことはあり得ないのです。ですから、そのことはぜひ知っておいていただきたいと思います。となると、やっぱり子どもたちが授業を通してどんなことをやってきたのかということ、子ども自身も自己評価するのが必要だと思いますし、またその活動の記録みたいなものがあつたほうが、後で先生が評価するのもきちんとできるのではないかなと思うのです。長いスパンで子どもたちがこの授業の中でどういうことに取り組んだのか、また、それについて自分はどのように考えているのか。そういったものを記録するような工夫がされている教科書というのはあるのでしょうか。

佐 藤 委 員 長 今の道德科における評価、特に子どもたちの学習状況や成長の姿をどう見取るかというようなことだと思うのですけれども、どの教科書も学習の振り返りができるように工夫されておりますが、大きなまとまりを考えたときには、そういったことを踏まえた評価につなげるために学期ごとに振り返りのページがございます。それは、東京書籍と光村図書出版、そして教育出版の3社でございます。また、学期ごとに振り返りの記述欄があるのは東京書籍、光村図書出版、そして学校図書、教育出版の4社になっております。

教 育 長 ありがとうございます。坂本委員、よろしいですか。

坂 本 委 員 はい。

教 育 長 ほかにございますか。すみません、進行の予定していた時間を大分過ぎ

ておりまして、大変申し訳ございません。ここまで、道徳までで全ての教科の質疑応答の時間というのは、ここまでといたしたいと思いますけれども、いかがでございましょうか。選定協議会委員長、佐藤委員長、そしてまた補足をいただきました事務局の酒見主幹ありがとうございます。

いかがでございましょうか。もうこの辺で教科ごとの質疑応答の時間は閉じますが、よろしいですか。この後につきましては、それぞれを今の質疑応答を踏まえまして、各委員から教科ごとに御意見を賜りたい、そして令和2年度使用の教科用図書の採択を教科ごとに進めていきたいと思っておりますが、そういう進行でよろしいですか。

（「異議なし」の声あり）

教 育 長 それでは、教科ごとに総括的な御意見をいただいて、意見の集約を図ってまいりたいと思います。よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

教 育 長 それでは、国語科のほうから早速まいりたいと思いますが、国語につきまして、いかがでございましょうか。

坂 本 委 員 先ほどの、野口委員からでしたか、国語というのは全教科の基礎となる重要なものであるということですが、全くそのとおりだと思います。国語科できちんと読むことを身に付けてもらわないと、教科書が読めなければどの教科も、学習にも影響が出てくるわけですから、そういう意味で読む力、それを徹底して国語科で付けてほしいなと思います。そういう意味で読むこと、こういったものについて多く取り上げている教科書というのが私はふさわしいのではないかなと思います。先ほどの説明の中では光村図書と東京書籍ですか、これが多いというお話がありましたので、私はこの2つのどちらかだったらいいのではないかと思います。

教 育 長 ありがとうございます。

ほかに国語についていかがでございましょうか。

新 藤 委 員 教科書展示を見に来られた方の調査アンケートにもいくつか書かれておりますが、光村図書出版の教科書には非常に代表的な作品が多く記載されている。それと、私は特に原作に忠実に採録されている。この点については、子どもたちにより深い読解力を育てていくことにもつながっていくのかなと考えております。それから、また先ほど選定協議会委員長の報告にもありましたが、子どもたちに言葉のもつ力とか、日本語の美しさに気付かせて、その活用をより促していく。そういうことに非常に力を入れて重

視した構成を行っているということに注目いたしました。その点で、私は光村図書出版がいいと推させていただきますと思います。

教 育 長 ありがとうございます。

ほかにございましたら、お願いいたします。

野 口 委 員 先ほどの読む力のことに関しては、光村図書出版とか東京書籍とかお話も出ていたので、光村図書出版の中で子どもたちが話し合う場面とか、そういうのを教科書の中でうまく取り入れているのかなというところも、私としては光村図書出版を推したいなと感じました。これからの子どもたちに、必要なスキルはたくさんありますけれども、やっぱり他者との協働というか、お互いにディスカッションしながら意見を交換し合って何かをつくり上げていく能力というのもとても大事なことから思いますので、そういう話し合うという部分について光村図書出版のところに割とそういうところがありましたので、いいのではないのかなと思います。

以上です。

教 育 長 お三方から今意見が出されましたけれども、ほかにございますか。

今の意見を集約いたしますと、東京書籍あるいは光村出版、特に光村図書出版の推薦が多いように思うのですが、いかがでしょうか。皆様の御意見を総合すると、光村図書出版を採択することよろしいですか。

（「異議なし」の声あり）

教 育 長 異議なしですか。よろしいですか。

特に異議なしということでございますので、国語につきましては、光村図書出版を採択するというところでございます。

次に、書写について、同様に御意見をいただきたいと存じますが、いかがでございましょうか。

加 藤 委 員 これまで事前に教科書を見せていただいたのですが、自分が書いた文字を振り返ることができるように、光村図書出版では毛筆が始まる3年生の教科書にシールがついていたのです。半紙に直接シールを貼ると、それで自己評価ができるということは、何か子どもにとってはいいのかなと思いました。字を書いて終わりなのではなく、自分がどのように書いたのか客観的に見るということは、子どもにとっても、とても重要ではないかと思いました。先ほども質問させていただいたのですが、姿勢や筆や鉛筆の持ち方などを多く取り上げているという点からも、光村図書出版がよいのではないかなと思いました。

教 育 長 ほかにいかがでございましょうか。

渡 辺 委 員 そうですね、私も光村図書出版がその国語との、今決まりました教科書とのつながりということを考えても、やはり光村さんがいいのではないかなと思います。それと、今の加藤委員の御意見に加えまして、また書き方ということで考えてみますと、横書きがあつたり、縦書きがあつたり、ノートや、あるいははがきとか、書き方いろいろありますけれども、発達段階に合った内容の資料を掲載していると感じておりました。それで、発展的な学習ができるのではないかと考えたところです。私も、光村図書出版がいいのではないかなと感じたところです。

以上です。

教 育 長 今、両名からお話ありがとうございましたけれども、ほかに御意見ございましたらお願いいたします。

書写について、皆様の御意見は光村図書出版という声が出ておりますけれども、いかがですか。よろしいですか。

（「異議なし」の声あり）

教 育 長 では、御意見がないということでよろしいでしょうか。

それでは、書写につきましては、皆様の御意見を総合いたしまして、光村図書出版ということで採択をいたしたいと思います。よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

教 育 長 では、続きまして、社会に移ります。社会について、何か御発言ございましたらお願いいたします。

坂 本 委 員 社会科というのは自分たちで課題を見つけて調べていく。子どもたちがつくった学習課題をもとにいろんな調べ学習をしていって、最後に結果をまとめるというような学習スタイルが多いと思うのです。そういった学習スタイルをそのまま教科書の中に配置しているのは、先ほどの話だと東京書籍と教育出版、これは、「つかむ」、「調べる」、「まとめる」といった形でしたよね。そういったもので構成されているということだから、この2社で選べれば私はいいかなと思いました。ただ、違いを見ると、東京書籍は6年生が分冊になっているのです。ほかの教科書は全部1学年1冊なのです。歴史と政治・国際の2つに分かれていることは、中学校での公民と歴史、そういった学習スタイルへのつながり、接続を考えると、これはおもしろい試みかなと思ひまして、どちらでもいいのですけれども、どちらかといったら、東京書籍のほうかなという気はしました。

教 育 長 はい、了解です。

ほかにございますか。いかがでしょうか。

新藤委員　今の坂本教育委員の御意見に加えてなのですが、ここに教科関連マークというのが東京書籍に入っているのです。今、本当に教科横断的な学習を工夫して、子どもに総合的な力をつけていくというのは、本当に大きな課題であり、目標になっておりますが、その点で社会科が独立したものであったとしても、他教科とのつながりをどうカリキュラムとしてマネジメントしていくかという点では非常に有効な教科書なのかなというふうに思っております。坂本委員がおっしゃった中学校への学びのつながりという点、それから今のカリキュラムマネジメントのやりやすさという点から、私は東京書籍がいいと考えております。

教　育　長　社会科について東京書籍ということで推薦が出ております。ほかにかかがございますか。

それでは、皆様の意見を総合しまして、社会につきましては東京書籍を採択するということによろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

教　育　長　そのようにさせていただければと思います。

それでは、続きまして、地図に入らせていただきます。御意見をお願いいたします。

これも、先ほど質問が出ておりましたが、新藤委員、どうぞ、お願いいたします。

新藤委員　今、テレビ、ラジオともに領土に関する諸外国との問題というのは、本当に頻繁に報じられているところなのです。これからそういう中で成長し、生きていく子どもたちに私は日本の領土について正しい知識を身につけてほしいと願っております。この点から日本の領土について、先ほど御説明がありましたように、色別で分かりやすく、本当に明記されているという点で帝国書院を推したいと思います。

教　育　長　なるほど。分かりました。

ほかにございますか。

地図について、私から発言してよろしいでしょうか。私も帝国書院がいいかなと思っております。これは地図を見ますと、情報量が多いということは、資料の価値としての質は高いと言えますけれども、果たして、子どもたちにとっての情報量が私は精選されている方が検索しやすいのではないかなと思っております。また、帝国書院については表やグラフ、あるいは分布図みたいなものが非常に多いため、資料を読み取る学習が充実で

きるのではないかなと考えております。

御意見がもしございましたらどうぞ。

今、新藤委員と私で意見を挟みましたけれども、帝国書院ということでありますが、よろしいですか。

よろしいですか。

(「異議なし」の声あり)

教 育 長 それでは、地図につきましては、帝国書院を採択することといたしたいと存じます。

続きまして、算数について御意見を伺いたいと存じます。算数についていかがでしょうか。

野 口 委 員 幼保小連携という切り口で評価したときに、東京書籍の内容はよく連携ということについて考慮されているかなと感じました。幼保小連携で考えると、1年生の教科書は分冊形式になっていて、非常に親しみやすい内容になっているということと、あとは6年生の教科書は、今度は中学との連携ということですが、巻末に中学校体験入学コースというところがあったりして中学校へのスムーズな移行というところを、教科書の中でそういう連携を強く意識しているのかなと感じたものですから、そういった意味で東京書籍を推したいと思いました。

以上です。

教 育 長 ほかにいかがでございますか。

坂 本 委 員 私、先ほど繰り下がりの説明がどういうふうになっているかという質問をしたのですが、その中で回答をいただいたものを聞くと、学校図書が非常に丁寧に説明されているというお答えだったのですが、丁寧に説明してあるという、それは子どもが自分であまり考えないで覚えるだけになってしまうかなと教科書を見たときに感じたところでもあります。

もう一つ、ほかの質問の中で中学、高校に行ったときの関数の学習につながるような、変化の数と関係の部分なのですが、それというのは、中学校、高校に行ったときに、非常にこれはつまづく子が多いのです。ですから、出だしのところの小学校でこの部分に丁寧に扱ってくれている教科書がいいかなと思って、先ほどの話を聞くと、東京書籍が一番割合としても高いということでした。学校図書か東京書籍と、最初見ていたときは思っていたのですが、野口委員の意見もありましたので、私は東京書籍でいいかなと思いました。

教 育 長 お二方から東京書籍という話が出ておりますが、ほかに何か皆様の方か

ら御意見ございますか。よろしいですか。

そういたしますと、皆様の意見を総合的に今うなずいてもいただきましたので、同意だということかと思いますが、算数については東京書籍ということで採択することによってよろしいでしょうか。よろしいですか。

（「異議なし」の声あり）

教 育 長 それでは、算数につきましては、東京書籍を選択することといたしたいと存じます。

次に、理科について、移ります。理科についての御意見をお伺いしたいと存じますが、いかがでございましょうか。

渡 辺 委 員 先ほども質問させていただきましたけれども、理科というのは問題解決型の学習が特に重視される教科だと思っていまして、児童が主体的に学んでいくためには問題を与えられるというのではなくて、自分から見つけていく、そんな過程が大切なのではないかなと考えています。

先ほどの御説明の中で、児童が自分から問題を見つけていくという導入部分に多くの分量を割いているのは大日本図書と教育出版ということでした。この2社を比較してみたところ、私は紙面がすっきりとしていてポイントがつかみやすいというところで大日本図書を推薦したいというふうに思います。

以上です。

教 育 長 承知しました。

ほかにございますでしょうか。

新 藤 委 員 理科の学習ということにおいても、やっぱり子どもたちが社会に自立していくために本当に基本的な学びで、力をつけていくわけですので、当然、職業であるとか、それから社会とのつながりといったことの視点は重要な学びのポイントになっていくのかなと考えております。この点からキャリア教育であるとか、あるいは今問題に大変なっております持続可能な社会づくり、それから情報の取り扱い方など、今日的な諸課題についても、本当に多くの場面で対応しているのが大日本図書なのかなと見た中で考えました。この点で、私も大日本図書がいいのではないかと考えております。

教 育 長 いかがでございますか。今二方から意見が出ておりますけれども。他に意見がないようでしたら、皆様の意見を総合してということになりますけれども、よろしいですか。

理科については大日本図書ということで集約を図りたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

教 育 長 それでは、理科につきましては大日本図書を採択することといたしたいと存じます。

次に、生活について御意見を賜ります。生活について、いかがでございましょうか。

野 口 委 員 また連携の話になってしまうのですが、今、幼保のほうで、その幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を目指して幼保の先生方が子どもたちを教育しているわけですが、そこときちんと連携をとってもらえる、そのスタート・カリキュラムを充実してくれる教科書ということで、ちょっと見ていたのですが、それについては比較的どの教科書もよく配慮されていて、その接続のことを意識されていると感じました。その中で、総合的で多様な教科でもあるので、先ほど加藤委員も質問されましたけれども、ある程度活動例みたいなものが精選されていたほうが、子どもにとっても、先生にとってもやりやすいのではないのかなと感じました。先ほどのお答えもありましたけれども、精選されているという点でいうと、教育出版と、あと啓林館のお名前が出ていたかと思うのですが、そのあたりがよろしいのではないのかなと感じました。

以上です。

教 育 長 ほかにございましたら、お願いいたします。

加 藤 委 員 今、野口委員から教育出版か啓林館との推薦のお言葉がありましたけれども、私も教育出版の教科書がいいのではないかなと思いました。生活科は、自分自身の生活について子どもが主体的に考えて生活する上で必要な習慣や力を身に付けることが大切なのだと思うのです。教育出版の教科書には「いぐら」という児童になじみやすいのではないかなというキャラクターが登場してきて、学習のガイド役を果たしてくれているので、子どもが「いぐら」によって主体的に学習に取り組もうとする意欲が引き出せるのではないかなと感じました。それで、吹き出しとかも使って交流活動が多く提示されているので、子ども同士の伝え合いも充実させることができるのではないかと思います。さらに、各単元の終わりの「もしも」のページを通して、低学年の児童だったら豊かな発想も広げることができるのではないかなと思いました。主体的・対話的で深い学びという、そういう観点からも教育出版の教科書がいいのではないかなと思いました。

以上です。

教 育 長 ありがとうございます。

生活科について、ほかにございますか。

坂 本 委 員 生活科の教科書、全社拝見したのですけれども、非常に工夫されていて本当に差はないような気がいたしました。生活科というのは低学年しかないで、あとは3年生以上というのは他の教科のところの学習につながっていかねばいけないのですけれども、そういった面で考えたときに、教育出版は最後に「学びのポケット」というのがあって、他の教科とのつながりが整理されている。そういう意味で、最後にまとめとして担任の先生が指導する際にも役に立つのではないかなと思いましたが、全然別の発想で見させてもらったのですけれども、やっぱりこれは低学年の子どもたちのものだから、絵だとか写真が非常に多いのです。その中でこの教育出版だけが非常に多くの子どもたちが出てきている中で、男女の差であるとか、それから肌の色であるとか、髪の色であるとか、また車椅子に乗っている子、乗っていない子と、そういうようなところが分け隔てなくきちんと載っているという意味では、そういった人権感覚みたいなものを十分に養える部分も工夫されているなと思ったものですから、生活科について、教育出版が他のものに比べるとちょっと抜き出るとしたら、そういうところかなと思いました。

教 育 長 ありがとうございます。

ほかには何かございますか。生活科についていかがですか、よろしいですか。

それでは、皆さんの意見を総合いたしますと、生活科については教育出版かなと思っておりますが、啓林館という声も一部ございましたけれども、総合的には、生活は教育出版を推される方が多いような気がいたしますが、教育出版を採択することで生活科はよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

教 育 長 それでは、生活科については教育出版を採択することといたします。

続きまして、音楽に移ります。音楽について、御意見をお願いいたします。

新藤委員、お願いします。

新 藤 委 員 小学校から音楽があるということはどんな人間でも人生の潤いとか楽しみを与える、そんな力を養っていくのかなと考えているところなのですが、そうした意味で色彩やレイアウトを、すっきりした形でまとめることに非常に力を入れて、ユニバーサルデザイン、それを強力に押し出しているという点で教育芸術社がいいのかなと思っています。どんな子どもたちにも、

潤いと楽しみを音楽から感じてもらいたいと考えておりますので、そんな点から繰り返しになりますが、教育芸術社を推したいと考えております。

教 育 長 はい、承知しました。

ほかにございますか。

加 藤 委 員 新藤委員と同じように、私も教育芸術社がいいのではないかなと思いました。3年生で初めて演奏するリコーダーの基礎に多くの分量が割かれているようなのです。具体的な練習方法を紹介するとかで丁寧に扱っていて、少しずつ小さなステップで確実に上達できるように工夫されているのではないかなと感じました。一つの題材に対して、歌唱と器楽演奏とさまざまなやり方でアプローチすることができるように、学習を深めるようにできるのではないかなと思いました。

以上です。

教 育 長 お二方から音楽について御意見が出されておりますが、いかがでございましょうか。教育芸術社という声が出ておりますが、教育芸術社でよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

教 育 長 それでは、音楽については教育芸術社を採択することといたしたいと存じます。

続きまして、図画工作に入りたいと思いますが、御意見、何かございせんか、いかがでしょうか。

野 口 委 員 いろいろな教科書でQRコードなり、ネットを使ったいろんな説明がされているようですが、先ほどの御質問もありましたけれども、開隆堂の動画説明の中で道具の使い方の説明をされているみたいなこともお話に出ていたので、より深く子どもたちがそういう活用ができるように、また低学年にとってもすごくいいのではないのかと思います。きちんと見る環境を整えるということとセットにはなるのですが、その意味でも開隆堂の工夫がされていていいのではないかなと思います。

以上です。

教 育 長 ほかにいかがですか。

加 藤 委 員 また続けてでよろしいですか。

教 育 長 どうぞ、加藤委員。

加 藤 委 員 芸術に興味があるのですが、小学校では作品展が行われていますけれども、保護者の皆さんや地域の方々から感心する声を非常によく聞くのです。これからも児童の豊かな創造性や表現力、感性を伸ばしていただき

たいと学校には切に要望したいと思います。こうした創造性や表現力は、子どもたち同士が学び合う中で養われていくのではないかなという部分が多いのではないかと思います。そこで、作品の紹介例の中に子どもたちが共同制作しているものが多く掲載されているのが開隆堂だと感じましたので、私は開隆堂を薦めたいと思います。お願いします。

教 育 長 いかがでございましょう、ほかにございますか。図工については開隆堂ということで意見が出ておりますが、ほかにございましたらお願いします。

開隆堂出版でよろしいですか。

（「異議なし」の声あり）

教 育 長 それでは、図画工作につきましては、開隆堂出版を採択することにしたいと存じます。

次に、家庭科に入らせていただきます。家庭科について、何か御質疑、御意見がございましたらお願いいたします。

新 藤 委 員 すみません。図画工作の今の話のやりとりの内容に重なるところがあるのですが、家庭科でも新しい教科書で子どもたちが学ぶということは新しい技術を、活用を身に付けていくということになっていくだろうと思っています。そのことが、またとても重要であろうと考えたときに、開隆堂出版の教科書にはやはりQRコードが本当に多く設定され、設けられているのです。これを、私も見させていただきましたが、先生がいない場所でも本当に一人一人が指導の内容を確認できるのです。だから、授業で分からないとか、あるいは授業のときちょっと疲れてしまっているとか、子どもも毎日のことですからいろいろある。でも、そのときに、このQRコードをたどることで、子どもたちが学びを獲得することができるというようなことは、やっぱり学びの幅やチャンスを本当に一人一人に広げていくことにつながっていくのかなと、自分も実感をしたところでした。このことから、ぜひ開隆堂がいいかと、推したいなと思っています。

教 育 長 ありがとうございます。

ほかにございましたら、お願いいたします。

渡 辺 委 員 私も開隆堂を推薦したいと思います。家庭科は、その学習したことを実践することが非常に大切なことだなと感じているところです。開隆堂は、チャンレンジコーナーで家庭での積極的な実践が促されています。そして、またその開隆堂の教科書には外国の子どものお子さんの絵や写真が多く使われておりまして、福生の子どもの実態に合っているのではないかな

と考えるところでございます。

それともう一つ、先ほど来、今までこういうことは余り少なかったのですけれども、いわゆるデジタルコンテンツと言われるものでしょうか。QRコードですとかインターネット、ICT機器を活用しなければ先へ進めない、そんなことが出てくるのではないかなと思ったところです。本日、多分この会議には多くの議員の皆さんが傍聴なり、また後で会議録をごらんになったりするでしょうから、あえて言わせてもらいますけれども、やはりそういったQRコードですとか、そのデジタルコンテンツがある教科書を選んだとしても、それを使える環境がなければ、これは何の意味も持たないわけでありまして、福生市においては、今、少しずつICT機器導入を図っているところでございますが、これはもうスピーディーに待たなしで、そういったところの推進を図っていただければと思います。

これは、本日の選定とはまた別の話になってしまいましたけれども、一言だけつけ加えさせていただきました。申し訳ございません。そのように推進していただければと感じています。

以上でございます。

教 育 長 承知しました。渡辺委員、確認ですけれども、家庭科については開隆堂でよろしいでしょうか。

渡 辺 委 員 はい。そうです。

教 育 長 承知しました。

ほかに何か御意見ございますか。よろしいですか。

それでは、家庭科につきましては、本市として開隆堂出版を採択することとしたいと存じますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

教 育 長 ありがとうございます。それで、渡辺委員からありました、そのICTといいですか、デジタルコンテンツ関係につきましては、今度全教科にかかわることございまして、調査いただきましたように、全教科の教科書のほとんどにQRコードなり、あるいはホームページへのリンクなりといったところについているところでございますので、御意見として議事録には残しておきたいと思いますが、また改めまして教育委員会等でも御発言いただけるとありがたいと思っております。

では、続きまして、保健に移らせていただいてよろしいでしょうか。保健についていかがでございましょうか。

坂 本 委 員 先ほど質問させていただいたように、私は、やっぱり子どもたちのメン

タルの面できちんと自分自身がコントロールできるような力というのは育てたいなと思っていますので、心の健康関係では東京書籍が一番多くて、その次は学研だという話がありました。また、不安や悩み、これについては学研が一番多くて、あとはほぼ同じということですので、私は東京書籍か学研、このどちらかだったならば、今の子どもにも対応できる授業ができるのではないかと思います。

教 育 長 はい。承知しました。

ほかにございますか。いかがですか。

渡 辺 委 員 すみません、私も学研を推薦したいと感じています。学研だけが心の健康の学習の中で、いじめ問題の対処の仕方についての特設のページが用意されていました。また、体の発育や発達について肯定的に受けとめる教材が数多く含まれていたと感じたところでございます。よりまして、学研教育みらいを推薦したいと思います。

以上です。

教 育 長 ほかにございますか。お二方から今、学研教育みらいということで御意見が出ておりますが、保健については、学研教育みらいを採択するというところでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

教 育 長 承知しました。それでは、保健については、学研教育みらいを採択することにいたします。

次に、英語についてでございます。先ほどから出ておりますように、英語については、初めての採択ということになります。本市では全国的にも先行いたしまして英語教育の推進を図ってきているところでございますが、そういった意味ではさまざまに資料等をつくってこれまで授業展開をしてきたというところで、小学校英語教育の指針とのつながり、そういう説明もいただいたところでございます。皆さん、御意見はいかがでございますか。どうぞ。

新 藤 委 員 来年オリンピック、パラリンピックという大きなものを控えたことがきっかけになっていると思いますが、本当に実際の場面で子どもたちがどのように英語を表現し、使えてコミュニケーションとして成立していくのかということが、教育内容としては問われているのだらうと思っております。そういうことを考えて、教科書を各社見てみますと、三省堂では「JUMP」という部分があるものがございまして、実際のコミュニケーション場面を想定して、そこで自分のことであるとか、身近なことであるとか、そ

ういったことを表現していく力を付けていくという構成が工夫されている。そこは非常にいい点だなと見させていただきました。

それから、今、中学校の英語では、三省堂の教科書が使われているということを考えましたときに、先ほど申し上げましたが、小中連携という意味からも三省堂がいいのかなというふうに思っております。

教 育 長 三省堂ということですが、ほかにございますか。

坂 本 委 員 これまでも市独自の指針をつくって英語への円滑な移行を進めてきたわけですが、それを見ると光村が近いだろうというお話が先ほどあったわけですね。ですから、光村がいいか、それとも現在の中学校の学習スタイルに合わせた形の三省堂がいいか。どちらかになるのではないかなと私はずっと思っていたのですけれども、やっぱり英語というのは、中学校以降が本格的に学習するところでしょうし、その中学校での円滑なつながり、接続、そういったものを考えたときに、中学校の学習スタイルを小学校で学べるほうがいいかなと考えていますので、光村か三省堂といったときには少し三省堂のほうを推したいなという気は今しています。

教 育 長 初めての採択で悩ましいところではあるのですけれども、三省堂という御意見ございますけれども、いかがでしょうか。何かもし他の御意見がありましたら、どうぞ。

それでは、総合いたしますと、どうもお二方の意見が今出されましたけれども、三省堂ということになるかなと思っておりますが、英語につきましては三省堂を採択することよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

教 育 長 よろしいですか。それでは、英語につきましては、三省堂を採択することといたします。

次に、道徳についてでございます。御意見、お願い申し上げます。

野 口 委 員 道徳の教科書において、これから先の見通しと、あと学んだ後の振り返りの観点というところから、東京書籍の教科書は「こんな自分になりたいな。」というコーナーがあったり、また年度終わりに成長したことということで記述できるページがあったり、あと学期ごとの振り返りを記述するページもあったりと、そういう見通しとか振り返りということについて、非常に重きを置いて構成されているのかなと感じたので、それがいいかなと思います。ということで、東京書籍を推したいと思います。

以上です。

教 育 長 承知しました。

ほかにございますか。

坂 本 委 員 道徳というのは物語を読んで子どもに感動しながら自分の生き方、これまでの行いというものを振り返ってもらう。そういう場面を多くつくってもらいたいと思いますので。感動的な教材が多いというので、先ほど東京書籍が御報告の中にあつたものですから、私も東京書籍がいいかなと思います。

あと、この東京書籍は、後ろのほうに、他社と違って、ああしろ、こうしろというような発問は比較的少ないような気がします。何かパターン化されるような授業よりも、担任の先生が自由にその教材をどういうふうに使えばいいか考えて、子どもに投げかける。そういう授業をしてもらうためには、できるだけこういった発問などが少ないほうがいいなと思うし、そういう意味では東京書籍でも十分そういった授業をやってもらえるのではないかと思います。先生方にとっては、ちょっと大変になるかもしれませんが、これは先生方には頑張ってほしいなという気はしています。

教 育 長 道徳について、東京書籍がいいのではないかという御意見を承っておりますが、ほかにございましたら、お願いいたします。よろしいですか。

道徳については、東京書籍を採択することにいたしたいと存じますが、よろしいですか。

（「異議なし」の声あり）

教 育 長 それでは、道徳については東京書籍を採択することといたします。

これで、福生市立の小学校令和2年度使用教科用図書の討論ということで終わりましたが、委員の皆様、本当に非常によく各教科ごとに調査をいただいております、ありがとうございます。また、活発に御意見をいただいたことは、進行上、本当に私もやりやすかったといえますか、特に集約の部分で、後半の部分で、各教科ごとに御討論いただきましたけれども、非常にわかりやすく出版社を挙げていただいて、進行としては大変助かった次第でございます。ありがとうございます。

それでは、ここで教育総務課長より、ただいま各教科ごとに採択した結果について確認をさせたいと思いますので、お願いします。

教育総務課長 それでは、ただいま御討論いただきました結果について確認をさせていただきます。国語「光村図書出版」、書写「光村図書出版」、社会「東京書籍」、地図「帝国書院」、算数「東京書籍」、理科「大日本図書」、生活「教育出版」、音楽「教育芸術社」、図画工作「開隆堂出版」、家庭「開隆堂出版」、保健「学研教育みらい」、英語「三省堂」、道徳「東京

書籍」。

以上でございます。

教 育 長 それでは、お諮りいたします。福生市立小学校令和2年度使用教科用図書につきましては、御討論の結果、ただいま報告いたしましたとおり、採択したいと存じますが、御異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

教 育 長 異議なしと認めます。

よって、以上、報告のとおり決定をいたします。

続きまして、日程第3、特別支援学級教科用図書の採択でございます。議案第46号、福生市立小・中学校特別支援学級令和2年度使用教科用図書の採択についてを議題といたします。主幹より内容の説明をお願いいたします。

教育施策担当主幹 日程第3、議案第46号、福生市立小・中学校特別支援学級令和2年度使用教科用図書の採択につきまして、御説明申し上げます。

今年度は、福生第一小学校、福生第二小学校、福生第一中学校に設置している特別支援学級の児童・生徒が令和2年度に使用する教科用図書の採択を行います。学校教育法第34条第1項及び第49条に、小・中学校においては、文部科学大臣の検定を経た教科用図書、または文部科学省が著作の名義を有する教科用図書を使用しなければならないと定められております。そして、特別支援学級で使用する教科用図書については、同法の附則第9条におきまして第34条第1項及び第49条に規定する教科用図書以外の教科用図書を使用することができると定められております。これらを踏まえ、平成31年4月19日の教育委員会定例会で御報告申し上げました福生市立小学校令和2年度使用教科用図書採択要領に基づきまして、教科用図書選定協議会及び特別支援学級調査委員会を設置し、特別支援学級で使用する教科用図書について調査研究を行いました。

さらに、教科用図書の調査研究に当たりましては、特別支援教育に関して専門的な知識を有する教員を調査委員会の委員といたしまして、それぞれの学級の在籍児童・生徒の状況に応じて作成された個別指導計画に基づいて、適切な教科用図書に係る調査研究を行ってまいりました。その結果がファイルの教科用図書選定協議会報告書、様式1内の特別支援学級の部分でございます。議案書のほうの7ページから13ページにそれぞれの特別支援学級で令和2年度に使用する教科用図書を一覧にしたものがございます。議案書の7ページから13ページでございます。そのうち一般図書につ

きまして、調査研究をした内容を様式1に示してございます。

特別支援学級におきましては、児童・生徒一人一人の実態に応じた教科用図書を採択する必要があることから、議案書7ページから13ページにございます全ての教科用図書について御配慮賜りますようお願い申し上げます。

教 育 長 内容説明は終わりました。これより質疑に入ります。いかがでございましょうか。

新 藤 委 員 ただいま御説明いただいたものですが、個別指導計画に沿って調査なされた図書だと思いますので、報告されたとおりで結構ではないかと思えます。

教 育 長 ありがとうございます。他にございますか。

異議なしということでよろしいでしょうか。

よろしいですか。それでは、質疑を終わります。

お諮りいたします。福生市立小・中学校特別支援学級令和2年度使用教科用図書につきましては、別紙のとおり採択をいたしたいと思いますが、御異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

教 育 長 異議なしと認めます。

よって、日程第3、議案第46号、福生市立小・中学校特別支援学級令和2年度使用教科用図書の採択につきましては、別紙のとおり決定をいたします。

続きまして、日程第4、議案第47号、福生市立中学校令和2年度使用教科用図書の採択についてを議題といたします。主幹より内容の説明をお願いいたします。

教育施策担当主幹 日程4、議案第47号、福生市立中学校令和2年度使用教科用図書の採択について御説明申し上げます。中学校教科用図書につきましては、特別の教科 道徳以外の教科書の採択をいたしますが、平成30年度検定において新たな図書の申請がなかったため、基本的には前回の平成26年度検定合格図書等の中から採択を行うこととしております。現在使用している中で、特段問題はございません。4年間の使用実績を踏まえ、御検討いただければと考えております。

以上でございます。

教 育 長 内容説明は終わりました。ただいま説明がありましたように、中学校の教科用図書につきましては、令和3年度から新たに使用する教科用図書

を令和2年度に採択することになっております。したがって、次年度につきましては、これまでの本市における4年間の使用実績を踏まえ、平成27年度に採択をした教科用図書を使用していきたいと考えておるというところでございますが、何か御異議ございますか。異議なしということよろしいですか。

（「異議なし」の声あり）

教 育 長 異議なしと認めます。

よって、日程第4、議案第47号、福生市立中学校令和2年度使用教科用図書採択につきましては、別紙のとおり決定をいたします。

以上をもちまして、本日の日程は全て終了をいたしました。

これをもちまして、令和元年度第1回福生市教育委員会臨時会を終了いたします。皆さん、どうもありがとうございました。

午後零時10分 閉会